

長畝ふるさと通信

【2010年11月号】

【収穫後の農作業】

稲刈りが終わって一段落、とはいかず仕事は山ほどあります。

■ 大豆の収穫(10月下旬から11月中旬)



組合では転作圃場で大豆を作っています。コンバインでの収穫はホコリまみれで、目や鼻・のどを痛めます。米の収穫が終わったこの時期、田んぼにいるのはカエルやイナゴ、野ねずみやカラスなど、人間の姿はほとんど見られません。

岩手みどりという青豆はきれいな緑色をした大豆で、打ち豆や煮豆用として販売しています。みなさんにも暮れのプレゼントとしてお届けします。楽しみに。



■ ライスセンターの大掃除(10月28日)



約1ヶ月稼働したライスセンターの大掃除です。貯蔵ビンの裏に貯まった「ゆりこ(ホコリ)」を人力でかき出します。作業の最中もゆりこがもうもうと舞って息も絶え絶え、鼻の穴は真っ黒けになります。かき出したゆりこは軽トラックで30車位になり、柿畑に肥料として散布します。

■ 耕耘作業(10月中旬から11月末)

稲刈りを終えた田んぼはトラクターで稲わらをすき込んでいきます。大小併せて約550枚ある田んぼを1枚1枚丁寧に打ち込んでいきます。3台のトラクターが毎日稼働してもひと月以上もかかるのです。耕耘を終えた田んぼは雨水が溜まりやすいように溝をつけて、「冬水田んぼ」にし、ドジョウなどの生きものが冬の間も暮らせるようにしています。



■ 堆肥散布(11月下旬)



地力の弱い田んぼには牛糞堆肥を散布します。有機質の堆肥は効肥が遅いため、秋に散布してしまいます。マニュアルスプレッター(写真)という散布機で堆肥を田んぼにばらまいていきます。前で運転しているボクにも当然ながら「う〇こ」の嵐が降ってきて、それはそれは香しい空気に包まれます。

■ 魚道設置(11月13日)



基盤整備が進んだ田んぼの排水路は大きな3面コンクリートの川になっています。ドジョウは田んぼで産卵しますが、これではドジョウが田んぼに入れません。そこで、設置されたのが「水田魚道」(写真)です。魚道は田んぼにつながっていて、春になって田んぼに水が張られると、川からドジョウが遡上するのです。ドジョウが増えないとそれを主食とするトキが野生で生きていけないのです。田んぼでたくさんの命が循環しています。

【くだものもおいしいぞ】

- おけさ柿やりんご、洋なし(ル・レクチェ)など晩秋の佐渡はおいしいくだものがいっぱい！



【子供たちと農業体験】



11月5日、地元の「行谷小学校」の4年生と柿の収穫体験学習をしました。収穫した柿は各々で皮を剥いて、ひとり3個ずつ「MY干し柿」にして校舎のベランダにつるしました。よく見ると、柿がじゃが芋のような形に姿をかえているのがステキです。ほとんどの子供が柿の皮むき初体験でした。

- 佐渡キッズ生きもの調査隊「収穫感謝祭」(11月21日)



子供たちにもっと田んぼに親しんでもらおうと佐渡市が結成した「生きもの調査隊」。無農薬での米づくりや生きもの調査、コウノトリの豊岡市との交流や東大での体験発表会など色んな活動に取り組んできました。収穫祭では自分たちでお米を炊いて、美味しそうにほおぼっていました。中には豚汁と一緒に5杯もたいらげる大食漢も・・・たくましい！

【今年の収穫感謝祭ははじめての交流ツアーも】(11月27～28日)

恒例になった収穫感謝祭に今年は消費者交流ツアーを取り入れました。玄米年間予約会員のみなさまに呼び掛けたところ、大阪や長野、東京・新潟から小さなお子さんも含めて、総勢11名の方々からご参加いただきました。会場となった活性化センターは約80名の人でぎゅうぎゅう詰めの盛況でした。ツアー参加者のみなさんとたっぷり食べて、たっぷり飲んで、たっぷり語った1日となりました。



詳しくはHPのブログでご紹介しています。
次回はみなさんからのご参加、お待ちしております。